

著：岡本 悠

完成：2021年6月19日

題：「本音～言いたいことを言わせてもらおう！！～」

副題：「岡本悠 39 歳のエッセイ集」

目次

はじめに

- 1、自分の人生をだいたい振り返る。
 - 2、巨人軍（読売ジャイアンツ）を無理に応援しない。負けでもかまわない。
 - 3、サッカーは、日本は、なぜ、こんなに強いのか？
 - 4、プロレスラーにならない・なれない、ことについて。
 - 5、音楽を私は、どうしていききたいのか？
 - 6、自分の恋愛について振り返る。
 - 7、筋トレや、ラジオ体操などの、運動について。
 - 8、読書とは何の為にするのか？
 - 9、大相撲は、横綱と大関の取り組みは、チェックしている。
 - 10、好きな女優さん、女性アナウンサー、女性スポーツ選手などを書いていく。
 - 11、好きな、最近の音楽について。
 - 12、ゲームの「プロ野球スピリッツ2019」PS-VITA。について。
 - 13、新型コロナウイルス（コロナ禍）の時代を過ごして。
 - 14、大谷翔平、ダルビッシュ有など、最近の日本人メジャーリーガーについて。
 - 15、生きる意味を、最近は考えなくなった。
 - 16、年齢を重ねると、暗いものより、明るいほうに、興味を持ってしまう感覚。
 - 17、「高嶺の花の女性」、とかいうイメージが嫌い！
 - 18、サッカー、遠藤保仁選手について。
 - 19、イケメンについて。デビッド・ベッカムや、内田篤人選手など。もちろん KAZU さんも！
 - 20、新しい仕事場・作業所を続けられるかのネックは、一番は人間関係を気にしないこと。
- おわりに

はじめに

私は、もうすぐ 39 歳になる。これを書き上げているのは、39 歳か遅くても 40 歳だと思う。

題にも書いたが、「本音～言いたいことを言わせてもらおう！！～」ことにしようと思う。正直、話のネタなんて全く浮かばない。でも書き始めないと、逆に何も生まれないということもある。

これは、本文でも触れるつもりだが、私は最近、新たに作業所にまずは、週 1 回 1 時間だけ通おうと思っている。そこで社会性を、社会との関係を、改めて繋げていくつもりだ。今の自分のペースでは、将来の自分を賄うだけのお金を稼ぐことは難しいかもしれないが、世の中の動き・進化は速いので、何がどうなるかはわからない。

最近は特に大きな現象として、新型コロナウイルス（コロナ禍）があり、書いている今も続いている。

日本では、東京オリンピック・パラリンピックがやるか、やらないか、で、どうやら 2021 年の今年は、やるということがほぼ決まっている。

本文では、新しい仕事への意気込みも書きたいし、自分のだいたいの履歴も自分で整理し確認する意味でも書きたい。最近はどうでもいいのだが、プロ野球の巨人軍（読売ジャイアンツ）のことを書いてもいいし、サッカーの A 代表や、U-24 世代も強いので、オリンピックで金メダルや、メダルが獲れたら凄いとと思っている。もちろん、侍 JAPAN（野球の日本代表）やソフトボール、サッカーのなでしこ JAPAN（女子日本代表）、この 4 つは特に期待している。

他には、プロレスのこと、音楽のこと、近頃はまったく縁がないけど恋愛のこと。

私は、2020 年、去年に、自費出版でプロレスの本を出しているし、昔は音楽のインディーズレーベルでアルバムを出したこともある。共にメジャーではないが、やりたいこととしては挑戦した。最近プロレスや音楽で何をしたいかわからない。新たに作業所で仕事をやりながら、社会と関わりつつ、こういう自分だけの HP（ホームページ）だけで読める本を書くとか、プロレスは HP のプロレスコラムや、kindle（電子書籍）で誰も買わないけど 100 円くらいで買える形にするとか、音楽は何をやりたいのかも見えてこない。

何かをやるということはエネルギーがいる。この本を書いても読んでくれる人がいるかもわからないし、これはどうでもいいけど、お金にもならない。おそらく自己表現したいか、何かまとめて外に出したいという感覚かもしれない。

運動や筋トレ、読書、ゲーム、プロレス、野球、サッカー、大相撲……なんかも書けるなら書きたい。

今、自分の中で一番大きなウェイト（比重）を占めているのは、新しく始めることになりそうな、作業所のことである。ここから将来的にどういう風に広がっていくかはわからない。辞めてしまうかもしれない。でも、いろんな人に感謝しつつ、自由に書かせていただく。

1、自分の人生をだいたい振り返る。

私は、今、39歳だが、(今、38歳だが誕生日を過ぎるので、以下39歳で統一) だいぶ前から振り返って、整理してみたいと思う。

私は、24歳で、デイケアという、社会生活の場に通い出した。

しばらくして働きたくなり、最初の作業所で働いた。

その後、またデイケアに通い出したか記憶は定かではないが、郵便ポストに入っていたチラシを見て、28歳の12月1日から33歳くらいまでの5年半を仕事場で過ごした。

その後、33歳~38歳までの約5年間は、最初は自分のやりたいことを探していたと思う。やったことと言えばプロレスコラムをHP(ホームページ)上で書くとか、出版社に持って行って、自費出版で「アイディア・プロレスコラム DX(デラックス)」というプロレス本を出版した。その後は、半年ごとに自分だけで、時に、知り合いに無料で渡す程度で、「アイディア・プロレスコラム シリーズ」の本を3冊程作り、最近も自分だけで外には出さないが電子書籍kindleで本の形にしている。それでもHP上で読める形になっている。

だから簡単に言うと、ここ10年くらいは、最初の5年半は仕事場に通い、後の5年間はプロレスを見て、プロレスコラムを書く作業や、プロレス本を書く作業をして過ごしたということだ。

そして、迎えた今回、39歳で新しい作業所に、自ら通いたいと言い、現段階では、体験を4回通って、上手くいけば、2021年7月2日(金)から、正式に通い出すことが決定している。ちなみに、以前の仕事場は歩いて行けたが、今回の新しい作業所は、歩いて、バスに乗って通うということで、私はまだバスに乗ることに慣れていないが、だんだんバスに乗るのも慣れてきた感覚がある。

最近はこの作業所のことで頭がいっぱいな感覚がある。まだ、金曜日の午後1時過ぎから1時間だけ作業するという契約だが、5年間ほとんど家に引き籠って作業をしていたので、急に外で作業をして、スタッフさんや、メンバーさんと、働くとか、移動をしたりするのは、疲れる。今はまだ、帰ってきてから疲れでバタンQの状態である。

ちなみに、私は、以前の仕事場を辞めたあとは、その時の上司の方が、私と3週間に1回くらいのペースでお会いしてくださり、1時間くらい近況報告やスポーツの話をしてくださった。今回の新しい作業所の件も、私の担当になってくださるようだ。細かいことだが、簡単に言えば、私は新しい作業所に行くが、3週間に1回くらいの上司との話し合いも続けてくださるということのようだ。

新しい職場では、私は、コンディションが悪いと浮くかもしれない。早く起きすぎてしまって眠いと、マジヤバイ。でも、私は、自分の中学や高校の時は、周りに喋る人がいないという時期も経験しているので、「集団の中の孤独」というものは、避けて通れないかもしれないが、慣れている。少し嫌だけど、「仕事をやる為に来ていると思ったほうがいい」と思おうと考えている。話かけられたら普通に返せばいいから、あとはコンディションだけだ。

2、巨人軍（読売ジャイアンツ）を無理に応援しない。負けでもかまわない。

私は、昔からプロ野球の巨人軍（読売ジャイアンツ）のファンだが、今、この原稿を書いている日は、巨人の交流戦は残り1試合を残している2021年6月12日（土）だ。

原辰徳監督が2年前から3期目の巨人の監督になってから、2年連続セ・リーグでリーグ優勝していたから、日本シリーズで福岡ソフトバンクホークスに、2年連続スイープをされ8連敗したが、私はとりあえずリーグ優勝していたから落ち着いていた。

しかし、シーズンはまだ半分くらいあると思うが、今年は、首位に阪神タイガースが立ち、2位の巨人とは最大の6・0ゲーム差がついた時点で、私は、今年の巨人を応援することを辞めた、諦めたのだ。もちろん勝てば嬉しいが、巨人の勝敗で振り回されるとか、ストレスを溜めるのは辞めた。

シーズンの最初の頃は、随時スマートフォンでチェックをして、一喜一憂して悔しがったりして、こんなに怒りが溜まり、ストレスが溜まるのは、そういうファン特有の病気みたいなものかな？ と思ったりしたが、交流戦で、阪神が勝ちまくり、巨人が沈んで、6・0ゲーム差になった辺りから、完全に私は開き直った。巨人は、今年は優勝できない、諦めよう。そう思ったのだ。そうしたら、どんなに阪神が勝っても、そして巨人が負けても、諦めているから、落ち込むとか、ストレスが溜まらない術を身につけたのだ。

確かに、その後、巨人は、ロッテ戦で坂本勇人選手（キャプテン）が指の怪我から復帰して2安打を打ち勝利するとか、この日は、岡本和真選手が1試合前から3打席連続ホームランを放つなど、巨人は2連勝して気分は良かったが、阪神も2連勝していた。でも、私は、阪神の試合のハイライトで普通にいや強引にでも「阪神勝て！」と言って阪神が勝つと、なんか潔（いさぎよ）いファンになれた気がして、それもいいのだ。阪神の怪物ルーキーの佐藤輝明選手などがホームランを打ったりして勝っても、自然と「阪神は本当に強いね！」と言葉が出るようになった。

交流戦も終われば、巨人と阪神の直接対決もあり、テレビでも放送されるようだが、私は、巨人を応援しつつも、別に阪神が勝ってもいいと思っている。だって、今年の阪神はメチャクチャ強いから。優勝するのだから。まさに、「あかん、阪神、優勝してまう」である。

そんな中でも、巨人は、坂本選手が戻ってきたら勝ちだすとか、岡本選手が打つとか、C.C.メルセデス投手が復帰後いきなり2連勝するとか、まだ、丸佳浩選手が調整中とか、梶谷隆幸選手の怪我復帰待ちとか、山口俊投手が巨人に復帰とか、菅野智之投手が復活など……話題は尽きない。でも、私は、今年の巨人の優勝は諦めている。そういう風に考えていると、私の心のバランスはいいのだ。どうせ優勝しない、できない、と思っている。

だから、私は、スマホでチェックなんてしていない。録画した夜のスポーツニュースでは確認するし、新聞でも確認するけれど、スマホを見て一喜一憂なんてしない。

今年も、来年からも、巨人にはそういう目線で見ていく。ストレスを溜めてイライラするなんて馬鹿らしいではないか。巨人が勝つのは嬉しいけど、結果は別に気にしないのだ。

3、サッカーは、日本は、なぜ、こんなに強いのか？

6月に入り、日本のサッカーは、A代表、U-24（東京オリンピック世代のチーム）、女子のなでしこ JAPAN が、毎日、立て続けに試合をしているが、ここまで約 10 戦以上で 3 チームとも負けがない。

U-24 には、オーバーエイジ枠として、吉田麻也選手、酒井宏樹選手、遠藤航選手の守備型の 3 選手が選ばれた。今のところ、この U-24 は、日本 A 代表との直接対決（兄弟喧嘩）を除いて無失点である。その試合ではオーバーエイジ枠の 3 選手が出ていなかったからというのもあるだろう。

私が、A 代表で好きな選手は、伊東純也選手である。セルビア戦ではゴールも決めた。

U-24 では、久保建英選手のジャマイカ戦、3 選手また抜きシュートは凄かった。左サイドの MF、三笥薫選手のドリブル突破も好き。右 MF の堂安律選手もゴールしても笑わなくなっているけどレベルは高いと思う。DF の富安健洋選手も頼りがいがある。ボランチの田中碧選手も良い。

なでしこ JAPAN で好きなのは、やはり、清水梨沙選手、長谷川唯選手である。

A 代表は、9 月からのアジア最終予選は、これはこれで独特のレベルが高い試合が続いて、今の最強メンバーが集結しても、必ずやカタール W 杯に進出できるとは限らない。気候とか、怪我とか、アジアの笛とか……裏で何があるかわかったものでもないし。そろそろ、日本は必ず突破できる国と言われたい。久保選手が話していたように、「自分達は強いですから」という言葉は期待させてくれる。

U-24 も、特にオーバーエイジ枠の 3 選手が入ってから、金メダルと言いたいし、メダルを奪いに行きたいところだ。メダルと言うなら、金メダルしかないと思うが、先程も久保選手のコメントを書いたが、堂安選手も、かつての本田圭佑選手のように、「優勝しか狙っていません」とサラリというタイプなので期待できると思う。ただ、ブロックの相手も南アメリカ、メキシコ、フランスという強豪国だらけなので、並ではないだろう。

なでしこ JAPAN は、人によるだろうが、男性目線では、清水選手や長谷川選手の美しさや、かわいさに目がいきがちでこの 2 人も凄いが、FW の岩渕真奈選手は絶対的なエースだし、菅澤優衣香選手や田中美南選手も得点力がある。DF のキャプテン、熊谷紗希選手は日本の男子の代表で言えば、吉田選手のような存在でチームのまとめ役で心強い。

男子にも期待できるが、女子のなでしこ JAPAN は、もっと金メダルやメダルに近い実力がある可能性がある。

やはり、男子と同じで、女子も海外に挑戦する選手が増えたことが、なでしこ JAPAN のレベルをこれだけ上げているのではないだろうか？

サッカーは、J リーグは今年も川崎フロンターレが飛び抜けて強いというのも、面白い反面、ライバルチームも出てきて欲しいし、川崎 F の時代がずっと続くということはないだろう、いつかは途絶える。女子もプロの We リーグが始まる。こちらも、面白くなりそうだ。

4、プロレスラーにならない・なれない、ことについて。

私は、39歳だからではないが、プロレスラーになることはできない。でも、昔は学生時代の仲間と2002年と2012年の2回、何回か集まって、草プロレスをしたことがある。だから例えば、スパーリングだけでいいのなら、試合はできなくても、プロレスのジムに通うとか、プロレスでないのは、本当は嫌だが、格闘技のジムに通うというやり方などで、プロレスラーに近い形はできるかもしれない。人徳や人を集める力があれば、その仲間がいい歳してプロレスごっこをすることもできるかもしれないが、私は人間関係が得意ではないから、やはり最高でもプロレスか格闘技のジムに通うというのが、プロレスをやるということへの一番近づいた形だろう。

しかし、獣神サンダー・ライガーさんの言葉ではないが、「プロレスは見るものではなくて、やるものですよ」と言うが、ライガーさんの息子さんは「プロレスは見るもので、やるものではない」と冗談を含めて返したらしい。

私は、どちらでもなくて、「プロレスは、書くものですよ」と言いたい。プロレスラーになれる人は限られているような気がする。私は、33歳くらいから5年くらい、プロレスは見ていたが、引き籠った感じの生活をしてきた。最近、少しずつ、作業所通いを始めて、外に出ていくつもりだから、そういうことが続けられて、スタミナややる気がついてきたら、ジムなどに行くかもしれない。でも、今の私では「プロレスを見て、書く」ということが一番、健康的にもバランスがいい。別の章で触れるかわからないが、腹筋、背筋、腕立て伏せ、スクワット、たまに柔軟、ラジオ体操、呼吸法、ストレッチなどをやっているが、さすがにランニングはしていない。ランニングだけは、昔はできたが、今やっても3日坊主や1日坊主で終わるだろう。

話は変わるが、私は、最近のプロレスは、確かに昔から見ているから、「これは！」という選手は男子レスラーも好きだが、女子プロレスラーの試合のほうが面白いと感じることもある。単純に異性だからだし、男の私からすれば、女性のほうが男性よりも、綺麗に見えるし、美人だとか、かわいい選手は応援したくなる。

これは、サッカーのなでしこ JAPAN で言えば、清水選手だとか、長谷川選手が出ている試合のほうが、一般の男子の試合を見るより異性だから、楽しい感覚と同じだ。

私は、恋人もいないが、仮に、子供がいたとしても、最近はそんな空想を考えるのも馬鹿らしくなってきたが、プロレスラーや、プロ野球選手や、サッカー選手……になろうが、ならなかろうが、私の知るところではない。

最近の私は、子供に託すのではなくて、39歳であろうとも、自分の人生でプロレスラーの夢は叶わなくても、プロレスラーになるのに、近いことをしたりする、「自分の人生」を主役にするのが、大事だと思うのだ。

だから、私は、例えば、ジムでスパーリングするのが、プロレスに近いとか。やはり、現状維持でジムなどいかず、プロレスについて書くということをして人生を終えてもいい。

5、音楽を私は、どうしていききたいのか？

私は、自分のやりたいことの中で、プロレスと音楽という2つの物が長く君臨している。

私は、20歳の誕生日に、音楽で、インディーズレーベルで7曲入りの「LIVE～生きる～」というアルバムを作った。

HP（ホームページ）上でも、音楽コーナーで、自分の楽曲をアレンジありや、ギターや、メトロノームや、アカペラなどで、作って曲の旋律や歌詞を忘れないようにしている。

私は、音楽番組を見ると、「ああ、自分の音楽も、こういう風に発表したいな」とか、「でも、ボーカルは緊張するから無理だな」とか、結局、15歳くらいから作詞・作曲してきたが、人前に出るのは性に合わない。アレンジ（編曲）で形にするためにシンセサイザーも考えたが、これも難しくてよくわからない。

それでも、最近の曲は、パソコンのユーチューブで、お金を払わなくても、聴けるようになっていく曲が多い。もしかしたら、ミュージシャンは特にCDなどでは稼げない時代になっているのかもしれない。ライブとかで稼いでいるのだろうか？

個人的な話だが、「LIVE～生きる～」という曲だけは、ユーチューブで歌詞を見ながら、歌を聴ける物を作ったが、7曲や10曲くらい作ろうと思ったが、大変なので、これは1曲だけで中断した。

年齢のことばかり言うが39歳になった私は、前々からだが、思春期に作った暗い曲などはあまり聴く気がしなくなっている。私のHP（ホームページ）上の、BESTアルバムでも、明るい系の「陽性カプセル」と、暗い系の「陰性カプセル」、などがあるが、「陽性」のほうが「陰性」よりも聴きたい。自分で作ったけど、「陰性」はあまり聴きたくないというのがある。

少し、整理して考えると、まず、今まで作ったたくさんの曲に、わからないからシンセサイザーでアレンジするという骨の折れる作業はしないということ。そして、ユーチューブの音楽コーナーで、10曲程度の曲を上げようと思ったが、大変なので思いとどまった、中止したということで、2つの原因がはっきりしていることだ。

だから、これは一応、諦めるという選択を選ぶことになるだろう。

私の中で、仮に2つの夢があった、「プロレスと音楽」だ。プロレスは前章で書いたとおり、ジムなどに行かないと無理だ。

音楽の可能性としては、自分の曲をアレンジしてくれる人に出会うことだ。その人を見つけるというのが相当難しい。以前は、ボーカルは自分が歌わないといけないと思っていたが、例えば、自分の曲を違う歌手が歌ってくれたら、それが一番いいかもしれない。だが、ある程度曲はあるけど、作曲ができなくなったら、そこでゲームオーバーかもしれない。

プロレスで、ジムでスパーリングして、一番近い道を選ぶように、音楽も究極は、今はコロナ禍だけど、カラオケで満足すればいいという考え方もある。今度の新しい作業所に通っても、プロレスや、音楽や、違う事は……今は無理だと考えて、並行してやればいい。

6、自分の恋愛について振り返る。

私は、今、39歳だが、28歳の仕事に入る前に彼女がいたのが、現時点での恋人の最後だった。だから、約11年、恋人はいないということになると思う。

その仕事場時代に、スタッフの方に、私もなんとなく勢いで、パソコンのワードで手紙を書いて「クリスマス一緒に食事でもしましょう」という恋文と、クリス・ハートという歌手のCDをプレゼントしたが、その手紙を渡した翌日、仕事の帰りに2人にしてくれたが、何を話したかはよく憶えていないのだが、速攻でフラれた。というより、多分、ビックリさせてしまって、向こうも困ったのだと思う。だから私は、恋に努力をしなかったわけでもないが、恋人がいなかったことはいないという状態は続いているのだ。

大学生の頃に、中国人の子と付き合ったのが私の恋人の始まりだ。私は実家に住んでいたのだから、チャラチャラしていた私は若く、中国人の彼女の部屋に入ると、いきなり「壁ドン！」をしたりして迫ったこともある。

これも大学の頃だが、大学の国籍の違う女性から紹介された、韓国人か何人かはわからなかったが、女の子と渋谷でデートした。私は、その頃、昼夜逆転していたので、一緒に映画館に入って映画を見ていたが、途中で私は眠ってしまって退屈な思いをさせたかもしれない。でも、帰りに喫茶店に寄って、ジュースを飲んで少し話して、1回きりのデートで別れた。というか、昼夜逆転していた頃なのであまり記憶が薄い。

他にも、元、プロレスラーのアントニオ猪木さん好きの日本人女性と、当時流行っていた総合格闘技のPRIDEを東京ドームまで観に行った。

ある昔の彼女とは、東京ドームまで、歌手の浜崎あゆみさんのライブと一緒に観に行ったことがある。

その他にも、フィリピン人の女性と付き合った。その彼女とは東京ディズニーシーに行って、一緒に楽しんだ。

最後の彼女とは、28歳になるまで付き合っただけで、一緒にいろいろなことをして遊んだ。思い出としては、西武ライオンズの今はドームのスタジアムに行って、プロ野球を見たことなど楽しい思い出でいっぱいだ。

ところで、私は、現時点では、お金を稼げていないし、空想だが、まずは彼女と一緒に暮らすなども私にとっては難しいことだと思う。私は一人暮らしの期間が長かったし、今も一人暮らしなので、彼女と巧く付き合うことができないかもしれない。ちょっとしたことで怒らせて喧嘩をしてしまうかもしれない。最後の彼女には、10年以上の前の話とはいえ、言わば突然の変な別れ方をしてしまったから、女性の気持ちがわからないと思う。

でも、そこにビビっていたら、別にしないで死んでもいいのだが、結婚も子供も、せめて彼女も無理ということになってしまうから、ぶっつけ本番である程度わがままでいいから、彼女ができたなら嬉しいかもしれない。でも、彼女ができなくても、人生を楽しめる可能性もあるから淡い期待としてあればいいと思う。でも、素敵な彼女ができたなら幸せかもしれない。

7、筋トレや、ラジオ体操などの、運動について。

私は、kindle の本で「モテるには～」系の女性が書いた本を買ったのだが、そこに男性がすべき基本が書いてあった。でも、勝手に盗んで書くわけにはいかないのでもちよっただけ触れるが、まず、「清潔感、清潔にすること」。これを読んでから、私は、1日に身体を2回ボディークリームで洗うという日もできたほどだった。夏だし、Tシャツなど洋服の洗濯などにも気をつけている。

あとは、筋トレをすることのようだ。ダイエットよりも、筋トレが大事とあった。私は、筋トレもラジオ体操も最近続けているが、マクドナルドやKFC（ケンタッキー・フライド・チキン）などのジャンクフードもよく食べるので、筋トレをしても、ジャンクフードで腹をカバーできない面はあるが、今、175cm～177cm から、77kg くらいである。あとは、炭酸も太る原因だろうが、コーラもよく飲んでいる。

私の家には体重計があるが、私は、昔は毎日のように量っていたが、最近はそういうことに囚われるのが嫌になって、ほとんど体重を量るのはしなくなった。今のリズムで食事して、今のリズムで運動などをしていれば、だいたい77kg くらいでキープすることもわかってきた。例えば、80kg 台に乗ってしまったら、もっとジャンクフードやコーラなどを減らせばいいと思っているし、更に絞りたいなら、嫌でも走ればいいと思うが、私は走るの辛いからしないと思う。それでも、この前までは頑なに体重計を乗るのは避けていたが、我慢するのもどうか、と量ったら、77kg だった。

筋トレの私のメニューは、腹筋 30 回、左腹筋 30 回、右腹筋 30 回、足を上げて腹筋 30 回、背筋 30 回、腕立て伏せ 10 回、スクワット 10 回、屈伸運動 10 回、両足上げ 10 回ずつ、足のストレッチ、腕のストレッチというメニューである。最初は 50 回とかでやっていたが、続ける為には数を減らしたほうが良いと考えて 30 回にしている。極端に言えば、毎日続けることのほうが大事だから、30 回もきついか、無理なら、10 回でも、1 回ずつでもいいと思っている。1 回は極端かもしれないが、1 回だけやろうとすれば、自然とせめて 5 回くらいはやってしまうものだから、それなら全部合わせて 20 回ずつくらい腹筋を鍛えられる。30 回がきつい場合もとにかく 10 回か 15 回ずつくらいやって、またあとで、残り半分の 20 回や、15 回をやれば続くということもわかってきた。

「モテるには～」の目的で書いてはあるが、私は、「モテるには～」はどうでもいいから、自分の清潔感や締まった体、洗濯、靴をピカピカにするなど、自分の中で綺麗にしたいという気持ちがある。そんなことを言っているが、私の住んでいるアパートは虫も多いし、私は掃除をするのがあまり得意ではないので、面倒臭いので、一気にやってしまうタイプなので、家の中が汚い日もある。

筋トレは思い通り行くかはわからないが、特に清潔感は女性が求める第一関門という基本のようなので、女性と言わず、自分が気持ちよくなる為にも、筋トレ、ラジオ体操、清潔感などはきちんと磨いていこうと思っている。そういうことからやる気なども出るだろう。

8、読書とは何の為にするのか？

私は、10代くらいから、今、39歳まで、かなり読書を継続的にして生きてきた気がする。特に、私はスポーツで、プロレス、野球、サッカーが好きなので、そういう選手や監督の自伝とかエッセイ集などを読むことが多い。

最近ではHP（ホームページ）のプロレスコラムというものを不定期に書いて出している。その前はプロレスコラムを義務化して、1日A4サイズ3枚とか、せしめていたから、プロレスの本ばかりを読んで、そこからアイデアをもらって、プロレスの本まで出した。しかし、プロレスだけを読んでいると幅が狭くなると思うとか、プロレスコラムを不定期にしたことにより、特に、野球やサッカーの自伝やエッセイ系も、改めて読むようになった。たまにこれを読んでみようという関係ない本も読むし、この前は、桜井章一さんという麻雀の方の本をkindleで1冊ずつ読んで、最終的にはたくさん買った。「心理学を学びたいなら、小説を読みなさい」という言葉を聞いたことがあるが、女性心理を知りたくて、女性作家の小説も2冊程買った。私は、あまり男というものが好きではなくて、確かに男のスポーツとか、本とか、そういう物も買うが、男子のプロレスよりも比較的、女子のプロレスのほうが好きだし、男性の書く恋愛小説というものもあまり積極的に読みたいとは思わない。音楽にしてもそうかもしれないが、これらは最近の私の傾向ではあるが、それでも別に無理に男性のものをシャットダウンしているわけではない。男子のものも見ることが、やはり女子のほうが綺麗だ。暑苦しくない。不潔でもない。

だから、読書は、今までは、プロレスコラムに載せるために義務化して本を読んでいたが、最近はいろんなジャンルを読んでいる。だが、疲れている時などに多いが、何の為に本を読んでいるか分からなくなる時がある。私は、昔は読んでいたが、自己啓発本や仕事の本などを仕事についていないのに読んでも、実践的に試す場がない。私の父親はそれを「栄養を摂っているだけだからね」と表現してくれた。

それでも、私は、野球やサッカーはやらないけど読んでいるが、ここには最近、「読む意味を考える必要はない」と考えている。私の場合、本自体を読むことが身に着いてしまっているから、楽しい、つまらない、に限らず読むという形になっていると思う。だから、別に本を読む必要なんてないかもしれない、というのはある。でも、私の場合は、また本を買ってきたり、持っている古い本を出して、読んだりしている。

ちなみに、私は、本を1冊一気に読むということはほとんどない。5冊とか、10冊とか、20冊とか、特に最近ではkindleの本ばかりを読んでいるが、ちょっと読んだらすぐ違う本に移して読むことが多い。並列読みである。

しかし、あまりに昔の本が溜まっていると、私は、2度以上読むのは飽きやすいので、やはり、新しい本を買うことが多い。いつも読む本はもうないかもしれない、と思っていると、新しい本が発売されているとか、宣伝されていて、買うケースは多い。だから、時代が変わっても、私も本を読み続けているかはわからないが、本がなくなる時代はやめて欲しい。

9、大相撲は、横綱と大関の取り組みは、チェックしている。

大相撲は、私は、幼い頃は、幼稚園から帰って来て、場所がやっていけば、昼3時くらいから欠かさず見ていたという記憶がある。北勝海（現、八角理事長）の大ファンで、必死に応援して、負けると狂ったように本気で泣いて、気づいたら眠っていたようだ。

現段階では朝乃山が処分を受け、三段目、1年間の出場停止。だと思うが、コロナ禍の中での行動で、処分を受けたようだ。

白鵬は横綱で、休場は続いていたが、次の場所は進退をかけて出場する予定のようだ。私は、ある方と話すのだが、「白鵬は東京オリンピック・パラリンピックで土俵入りをやるのかな？」という話題になるが、「相撲協会が認めないのではないか？」という話になり、そうならば残念である。これだけの記録を作った大横綱だから、それくらいは認めて欲しい。

そして、やはり凄いのは、怪我で相当下の番付から復活して、大関になり、2場所連続優勝をして、次の場所は横綱がかかる照ノ富士だ。

あとは、貴景勝の押しもブルドーザーのようで物凄い威力があると思うが、やはり、それだけだと、研究されてしまうのか、貴景勝は引く癖があるのが、いいのか、悪いのかがわからない。

私は、大相撲はHDD（ハードディスク）に録画して、夕方6時に放送が終わったら、再生で基本的に大関のところから順番に見ていく。最近は横綱が出ないから、大関の相撲だけを見て終わるケースもある。

あとは、千秋楽の「これより三役」は好きだが、嫌いなのはいつも書いているが、塩を巻く時間が長いこと。あれを省略すれば、物凄い速さで大相撲の1日は終わるような気がするが、そういう塩にも意味があるのだろう。アメリカではブーイングが起きそうだ。

大相撲の千秋楽で、優勝が決まったあとの国歌斉唱などは、凄い感動があって好きである。あと、昔は優勝力士へのヒーローインタビューはなかったと思うが、あれは結構良い発想だと感じる。そして、千秋楽の最後の音楽が流れて、今場所を映像で振り返りながら終わっていく音楽と映像も好きである。

あまり書くと、若いのでかわいそうだから、軽く触れるが、私は、朝乃山は先場所見た時に、朝乃山はスロースターター（調子をあげるのに時間がかかる人）という感じがした。いつも、後半から優勝争いに絡むイメージを持っていた。

朝乃山が処分を受けたので、これからは、大相撲は幕内では誰を応援していこうか。もちろん横綱の白鵬には頑張ってもらいたい。そして、一番は照ノ富士だろう。そして、貴景勝。この3人くらいしか浮かばない。

正直、純粋な日本人力士にも横綱になって欲しいし、勝って欲しいが、純粋な日本人という中では、貴景勝が一番可能性は高いかもしれない。

でも、話は変わるが、日本人とか純粋な日本人とか、そういう差別的な言い回しはあまりするべきではないだろう。国籍を変えるとか、ハーフなどの人は、これからは当たり前かも。

10、好きな女優さん、女性アナウンサー、女性スポーツ選手などを書いていく。

少し、気分転換の意味も込めて、私が好きな女優さんや、女性アナウンサー、女性スポーツ選手……などを書いていこうと思う。

女優さんだと、パッと思いつくのは2人いて、井川遥さんと、長谷川京子さんだろう。今、調べたところ、2人共40代で私よりも年上ということが発覚したが、とても綺麗だ。あとは、中村アンさんも美人、彼女は30代前半で私よりも年下だった。

元フジテレビで、今フリーだと思うが、アナウンサーの加藤綾子さんは、カトパンと呼ばれるが、30代中盤で、やはり美しい。

CMを見ていると、よく深田恭子さんが登場するが、彼女は私と学年が一緒つまり、だいたい同い年ということに驚いたが、昔から好き。

そういった、王道系の女性はこんな感じだ。

私は、元プロゴルファーの、宮里藍さん「通称：藍ちゃん」のファンで、これを書いている日に「宮里藍サントリーレディースオープン」という自分の名前の冠大会を持つ、大会の最終日が行われたが、この大会を毎年ほぼ欠かさず見てきた。私より3歳くらい年下だが、喋っていることがしっかりしすぎていて、私と話したら会話が成立しないくらいしっかりした人だなと思ってしまう。今年もこの大会が見られたからホッとしている。やはり、かわいい。

サッカーでは、なでしこ JAPAN では、清水梨紗さんと、長谷川唯さんが好き。共に24歳。あとは、今回、オリンピック候補には選ばれていないが猶本光さんもかっこいい系の綺麗で好きである、27歳だ。自然とそうなるものかもしれないが、野球でもサッカーでも、チームに1人は男子ならイケメン。女子なら美人を入れたほうが、注目度が増すと思う。「いなかったら見なくていいじゃん」と、私は思ってしまうところもあるからだ。

アナウンサーでは、テレビ朝日のアナウンサーの三谷紬さんが好きではあるが、あまりにも新日本プロレスのプロレスラーと仲良くなっているので、これは壁が厚いな、という気がしている。でも、綺麗だし、性格が面白いと思う。あとで書くが、歌手のあいみょんさんや、女子プロレスラー、スターダムの岩谷麻優選手などに、顔が似ている気がする。

歌手では、ZARDの坂井泉水さんや、倉木麻衣さん、などは王道で好きだが、あいみょんさんは、まだ弱冠26歳のようだが、なんというか、普通に好きである。もちろん、「マリーゴールド」や「ハルノヒ」、「猫」……などといった楽曲が私は好きだが、個性があるのか、何か安心させてくれて好きな歌手である。

最後は、プロレスで締めるが、スターダムの舞華選手が今トップ、綺麗。マーベラスの門倉凜選手も好き、美人でかわいい。東京女子プロレスの山下実優選手もかっこいい系で美人。あとは、WWE（ワールド・レスリング・エンターテインメント）のカイリ・セイン選手や、柴雷イオ選手。スターダムのひめか選手も好きだし、引退したが、星輝ありさ選手も好きだった。岩谷麻優選手もかわいい。外国人では、レイラ・ハーシュやトニー・ストームも好き。

11、好きな、最近の音楽について。

最近、私が見ている音楽番組は、「ミュージックステーション」、「CDTV ライブ！ライブ！」、「関ジャム」、「ビルボードトップ 40」の4番組くらいである。

私は、15歳の学生時代くらいから、自分で音楽を作っていたので、自分の曲が好きだからあまり他人の曲を聴くことに興味はなかったが、「HEY! HEY HEY! ミュージックチャンプ」や「うたばん」……などといった番組は見ていたので、それなりにCDも買ったりしていた。

確か、10代後半くらいから歌を習い始めたので、家で練習する為に、特に男性の歌手を中心に歌の練習をしていた。だから、J-POPが中心だが、それなりにその時の流行の曲は聴いてきたつもりだ。でも、2000年くらいから、2020年や現在などは、あまり、歌手が誰だかわからなくなっている。

最近は、「創世のアクエリオン」という、昔、CMで聴いて「面白い歌だな」と思った曲が、「CDTV ライブ！ライブ！」か何かで流れていたの、ユーチューブで確認したら、歌詞ありで聴くことができ感動した。今、一番好きな曲は「創世のアクエリオン」である。

そして、これはプロレスの話だが、クリス・ジェリコという選手は、ムーングース・マックイーンという別名で、FOZZYというバンドで活動しているが、その中に「Judas (ジユダス)」という曲があって、ジェリコは入場テーマ曲にこの曲を使っているが、客が一斉にノリノリで歌って盛り上がるので、私はこの曲が好きである。現時点では2番手くらいに好きな曲だろうか。

昨年の大晦日に、紅白歌合戦で、YOASOBIの「夜に駆ける」を、初めて生で聴いたが、あれは結構衝撃的で楽しく聴くことができた。HDD(ハードディスク)に録画しておいたから、ずっとしばらくは保存しておいて、何度も聴いた。しばらくして、紅白歌合戦の5時間は容量を取りすぎだから消したが、最近もユーチューブなどで聴いている。あとはYOASOBIでは、「群青」も好きな歌だ。

1回話は変わるが、昔、椎名林檎さんの存在は知っていたが、いつの間にこんなに偉くなったのか？ といえは語弊はあるが、そうなったのだろうと最近は思っている。椎名林檎さんはソロで活動していたが、近頃は、改めてバンドの東京事変で活動しているようだ。その中でいつも思うのは、椎名林檎さんの歌は何故か歌詞が、テレビの下側ではなくて、右側に縦書きで書いてある点だ。あれは椎名林檎さんがそうしていると思うのだが、いつもそうなので面白い。

日本の歌は、ある程度聴いていると、すぐに飽きたりしてくるが、海外の曲もやはり自分には入ってこない。何か時たま、「創世のアクエリオン」のように突然好きになる。とか、そういう偶然性のほうが多い。

でも、去年のBON JOVIの、コロナ禍での、励ますような歌とDVDがあったが、あれは本当に自然でかっこいいと思った。私は果たして本当に音楽が好きかどうかはわからないが。

12、ゲームの「プロ野球スピリッツ2019」PS-VITA。について。

今、年号は2021年であり、ニンテンドースイッチや、プレイステーション5、スマートフォンゲームといったゲーム機が発売されていると思う。

私は、ややマリオ系のニンテンドースイッチには、あまり興味がなく、スマホのゲームは使うだけお金が取られそうなので（確かではないが）嫌である。

だから、プレイステーション5を本当は買いたい。そうすれば、私の買いたい野球、サッカー、プロレス……といったスポーツゲームのソフトが買えると思う。例えば「実況パワフルプロ野球」や、「ウイニングイレブン」、「プロ野球スピリッツ」、「ファイヤープロレスリング」といったソフトで遊べる。

でも、まだというかプレイステーション5やソフトを揃えると、10万円近くする可能性があるので踏み込めない。

なので、私は、だんだんゲームソフトの発売がなくなっている、PS-VITAの「プロ野球スピリッツ2019」という野球ゲームの、観戦モードで先発メンバーや、フロントの仕事、などをして、巨人軍（読売ジャイアンツ）を取って、1年間プレーした。まだ、シーズンの消化試合はあるが、巨人でリーグ優勝して、2位・広島とは16ゲーム差くらい離している状態だ。貯金も40以上ある強すぎる優勝である。これで、あとは消化試合をこなして、クライマックス・シリーズを戦い、勝てば、日本シリーズに進出することになる。

シーズンオフには、こんなことを考えている。監督は阿部慎之助にして、打撃コーチはアレックス・グレーロ、投手コーチは上原浩治、一塁コーチは陽岱鋼（仮）、三塁コーチはハーディー（私が獲得した新外国人）、国内スカウトは岩隈久志、国外スカウトはスコット・マシソンという形で2年目を戦ったら面白そうだと思っている。

本当の野球はわからないが、私が使っているゲームの巨人を見ていると、守備が巧くないといらぬ失点をして勝てない。だから、勝ちにこだわるなら守備の堅いチームを作ったほうがいいと思っている。特に私はいわゆるセンターライン、捕手、二塁手、遊撃手、中堅手は堅くして、左翼手と右翼手もまあまあ堅く、一塁手と三塁手はほどほどでいいという布陣だ。でも打撃系の選手を使いたい場合は、少々、動きが悪い守備でもしょうがないが、アウトを取れるところが紙一重でヒットになったりして、気づけば相手の大量得点に繋がる場合もあるのであまり好まない。

私は、この「プロ野球スピリッツ2019」は、1回クリアしている。その時も巨人だったがダントツで優勝した。だから、阿部監督采配を試してみて、ちょっと様子を見たいと思っている。

そして、PS-VITAは卒業しようと思ったら、プレイステーション5を買うかもしれない。もしも買ったなら楽しみだが、今まで読書などをしてきた時間が無意味にゲームの時間になってしまわないか心配している。私は野球ゲームもいいが、昔みたいにサッカーの「ウイニングイレブン」を買って、監督モードで試合を見たい。「ファイヤープロレスリング」も。

13、新型コロナウイルス（コロナ禍）の時代を過ごして。

新型コロナウイルスは、中国から発生したと言われていたと思うが、確か2020年2月くらいから世界中に広まったと思う。2021年6月14日（月）現在も、まだ、コロナは続いている。

私は、最初の頃は、ニュースでコロナは非常に危険なものであると知った。最初の頃は、何か大型の船で感染者がいるから降りられない状況などが映し出されていた。そして、日本でも広まり、最初の頃は「100人感染しました」とか、だんだん「感染者を治療するベッドがない」など騒ぎが広まった。そして、芸能人では志村けんさんなどがコロナで亡くなるという悲しいニュースもあった。

話は違うが、昔、確かアメリカ人の俳優、レオナルド・ディカプリオさんの映画で、ディカプリオさんが役の中で、幼い時に親から、「細菌に気をつけて生きろ」と言われる。それいらい、極端な形となり、ドアノブや、簡単に言えば物全てに、「触りたくない!」という神経質な症状になり、部屋に籠って、何か物にどうしても触らなければいけない時は、手にティッシュをつけて触るという症状になるという映画を見たことがある。私は、この映画を見た時、「主人公は（ディカプリオさん）は、トイレはどうするのだろう」と思ったが、それはわからなかった。

私は、このコロナが始まってから、手洗い、うがいを、今まではしていなかったのに、ちゃんとするようになった。マスクも石鹸をつけて洗い、ある程度使ったら、新しいのをおろしている。窓も開けるようになった。私は、さすがにディカプリオさんの映画のように、物に触りたくないとかそういう感じは全く持っていない。

私は、けっこう緊張しやすいタイプなので、顔を悟られるのが嫌いなのだが、マスクをしていると、顔の鼻から下は隠せるので、そういう面では少し助かっている。だから、逆にコロナがもし終息に向かった場合、皆、マスクを外すのかな？ と思うが、マスクを外さないタイプの人も出るのではないかと思ってしまう。それは、コロナの可能性がまだ少しでもある可能性を含めてだが。女性ならメイクのミスをマスクでごまかすとか、緊張しやすい人が、マスクをつけるというケースもあるかもしれない。特に引きこもり系の人なんかは、マスクがあれば外出できる、という可能性もあるだろう。

スポーツは、中止や延期、無観客試合……などが、いろんな競技で起こったが、プロレスは、日本では、そういうことがやはり起こった。でも、アメリカの場合はWWE（ワールド・レスリング・エンターテインメント）や、AEW（オール・エリート・レスリング）といった団体などは、毎回同じ場所で開催し、ほぼ無観客に近い状態だったが、ユーチューブなどで見られる形式をとった。おそらくアメリカにはプロレスが欠かせないという文化にまでなっていると思う。あるレスラーがコロナで陽性になっても、違う選手を使ったりしてカバーして放送していたと思う。

東京オリンピックもコロナ禍がおこなわれる気配はある。コロナは終息して欲しい。

14、大谷翔平、ダルビッシュ有など、最近の日本人メジャーリーガーについて。

最近、大谷翔平選手が、メジャーリーグでまさかの日本人ホームラン王争いに絡んでいる。これは、あの松井秀喜さんでもなかった光景だ。それも大谷選手は投手と野手の二刀流という形でやっている。

やはり、イチローさん、松井秀喜さん……の時もそうだったが、日本人の活躍がスポーツニュースで毎日のように流れてくると面白い。

大谷選手は、あのマイク・トラウト選手と同じチーム（ロサンゼルス・エンゼルス）ということも凄いが、チームの順位は最下位争いのようだ。そのトラウト選手も今は怪我か何かで離脱している。なので、2番・大谷選手の次を打つ、3番・トラウト選手が不在の為に、大谷は勝負を避けられる傾向が多いようだ。大谷選手は理想を言えば、もう少し打率が上がってくればいいが、やはりホームランを打つところも魅力だから、多少は打率が低くてもしょうがないかもしれない。

大谷選手は、二刀流で投手としても活躍している。でも、だいたい投げるのは5回くらいまでで、リリーフ陣が打たれて、勝ち負けが大谷投手につかないケースが多い。ベーブ・ルースのようにホームラン10本は超えているが、投手としても同時に10勝したら凄いなと思う。でも、ルースの時代と比べると、時代も違うのかもしれない。今のほうが難しいかどうかはわからないが。それを可能にしてくれるのが大谷選手だと期待する。

去年は、コロナ禍で、メジャーリーグも、相当試合数は短かったが、サイ・ヤング賞争いにダルビッシュ有投手と、前田健太投手が絡んだ年だった。特にダルビッシュ投手は、日本人初の最多勝投手に輝いた。前田投手も防御率は低かった（良かった）。ダルビッシュ投手はなんと10種類以上の変化球を投げられて、ベースの端から端に横に曲がる変化球は、「テレビゲーム変化球」などと呼ばれるようで面白い。ダルビッシュ投手は常に日頃からボールを握っていて、変化球についてなどあれこれ考えて試してみよう。とか、考えているようだ。かつての大魔神、佐々木主浩さん（投手）も、子供の質問に「とにかくボールを握っていることが大切だ」ということをアドバイスしていた。

私が知っているメジャーリーグの凄い投手は、あまり詳しくはないが、カーショー、シャーザー、デグロムといった辺りの投手だ。特にカーショーはダルビッシュ投手とロサンゼルス・ドジャース時代チームメイトだったと思う。この2人は今年投げ合って1勝1敗の五分だったということのようだ。

日本人メジャーリーガーは他に、菊池雄星、澤村拓一、有原航平、筒香嘉智、秋山翔吾といった面々で、山口俊はメジャーから巨人に戻ってくるようだ。今、活躍しているのは、菊池投手、澤村投手といった2人はまずまずのようだが、他の選手はあまりニュースが流れてこない。特に、日本であれだけ活躍した、筒香選手や秋山選手がなかなか結果を残せないのを見ると、バッターはメジャーリーグでは、昔の選手を見ても、かなり難しいのだと感じる。それは投手にも言えるが。でも、大谷選手やダルビッシュ投手の例もあるのでどうなのか。

15、生きる意味を、最近は考えなくなった。

私は、10代の思春期～20代前半くらいまでは、「生きる意味」を探さないではいけないでいた。

しかし、私は、今、39歳になり、そういう哲学的なことは考えなくなった。それは、これから、例えば、何かの病気の診断にひっかかれば「死について」とか、考えるかもしれないが、今のところ健康体なので、考えることはない。

一応、以前の私のHP（ホームページ）の、BOOKS コーナーでも書いたと思うが、私は、こういう結論に至っている。

（だいぶ前に）生まれて → （今、）生きて → （もうじき）死んでいく。

という単純な結論を出して、こう考えると、それが「生きる意味」の答えに感じる。

私は、人間が死ぬ時は、全員が全員、何らかの病気や、もちろんさまざまな死で死ぬものだと思っていたが、この前新聞を読んでいたら、人間の死に方で多いのは「老衰」つまり、違うかもしれないが、「寿命で死ぬ人」が多いということを知った。

もちろん、私もできれば、痛いとか、苦しい、でなければ、「老衰」で死にたい。

話は逸れるが、私は、思春期の時、同時に「飢え死にで死ぬ」という恐怖感があった。今は、ほとんどそのことも考えないが、飢え死にしそうなら、今の私なら「国に助けてもらえる可能性はあるかもしれない」し、それも無理ならば「ホームレスになる」しかないと思う。でも、痛いとか、苦しいもそうだが、ホームレスも、今はそんなに恐怖感はないと言える。それしか方法がないのだと思える。小泉純一郎、元総理も言っていたが、「北朝鮮の人達は道の草を食ってでも生きていますよ」と、何かで読んだことがある。だから、今の私はまだ恵まれているほうだと思う。

もちろん病気は怖いものだろう。今のコロナを初め、できるだけかかりたくない。水泳の池江璃花子選手は、白血病と戦い、今年の東京オリンピックに出場できるまで克服したが、麻酔とかどうだったのかわからないが、「あの手術？（治療）は、2度と味わいたくない」と話していたということで、私は、あまり普段から、病気に警戒したりしないが、やはり病気にはかかりたくない。

アンチエイジング（老化を防ぐ為におこなう行為）を、まったくしないという人もいるが、それが人間にとって自然だからであろう。しかし、私は、外を走ったりするのは続かないからやらないかもしれないが、筋トレやラジオ体操程度のことはやっていきたいと思っている。私の祖母（おばあちゃん）も言っているが、歳を取ると身体のあちこちが痛くなるというので、それを避けたいのだ。無理かもしれないが。

この前もメジャーリーグの野球場の外の海でボールを拾う外国人のおじさんの話があったが、その為にも身体を鍛えて運動していて面白いと思った。そういう生き方も楽しい。

16、年齢を重ねると、暗いものより、明るいほうに、興味を持ってしまう感覚。

私は、前にも書いた通り、思春期は、テレビとかでも、人生について語り合うような番組などを見ていた。音楽なども、悲しいバラードなどばかりを聴いていたし、自分で作る歌もすぐに「死」に近いような暗い曲を作ったりしていた。

でも、歳を重ね、だんだん、テレビなどでも、暗いとか気分合わない番組などは見ようとせず明るい番組などを見ることが多くなった。だが、私は、意外とお笑い番組などは見ないケースが多い。

それでも、私が小さい頃から、とんねるず（石橋貴明さん、木梨憲武さん）、ダウンタウン（浜田雅功さん、松本人志さん）、ウッチャンナンチャン（内村光良さん、南原清隆さん）など、ずっとテレビに出続けて、確かに他に問題があった芸人さんなどもいたが、この3組など、あまり問題も起こさず、笑いのことを中心にテレビなどでやり続けていることは凄い。

私は、基本、スポーツ中心にしか見ない生活をしているが、音楽番組も、そして最近ではテレビ東京でAKBグループの3グループが30分番組ずつ、深夜に放送しているのは、意外と楽しいから録画して翌日見ている。

そういうところに、司会で芸人さんなどが出ているのは面白いから、そういう意味のお笑い番組は見ているという感じだ。

でも、賞レースのチャンピオンを決めるような、漫才の大会とかは、見ようとはしない。最近はやっとそういう大会が多すぎる気もするが、特に見ないから全然かまわない。

私は、自分で音楽を積極的に、鼻歌やギターで作っていたことはあったが、思春期の作品はとにかく暗かった。歌の先生にも聴かせたら「また死について（笑）」と言われてしまったこともある。別にジョークで気にしていないが、でも、それだけ暗かった。

20代くらいの時は、キャバレークラブ（キャバクラ）やスナックに行くこともあったが、こういうところでは、比較的明るい歌を歌うことが多かった。明るいというより、女性がいるから、アップテンポなラブソングとかを歌う傾向はあった。一応、今、39歳でお医者さんに、お酒は控えてくださいと言われてる。なので、キャバクラやスナックで、シラフで言ってもいいのだが、やはりお酒を飲んで酔っ払ってないとつまらないので、最近は全くそういう店には行かなくなった。でもお酒をやめてからは、問題も起こさなくなったからいいけど。結構、お酒を飲めない人というのも、世の中には多いことも知った。次、生まれてきたら、私はお酒、ビールなども飲みたい。ノンアルコールビールも駄目と言われてる。

話は逸れたが、私の作った曲には、明るい曲と暗い曲があるのだが、明るい曲は歌う気になるが、暗い曲はあまり歌いたくなくなってしまった。

言霊というか、例えば私の「生命～いのち～」という歌では、「死んでしまったなら」という歌詞があるが、そういうフレーズを口ずさむのが嫌なのだ。それは別に私の曲ではなくても、違うミュージシャンの曲でもそうだが、まだ他人の曲は別にいいと思うのだが、自分の曲の暗いメロディーや歌詞は、あまり歌いたくない。私も少し歳を取ったのかもしれない。

17、「高嶺の花の女性」、とかいうイメージが嫌い！

最近、音楽番組のランキングを見ていたら、メガネをかけた歌手だったと思うが、題名もよく知らないのだが「高嶺の花の～」というような題名の歌を歌っていた。

私は、昔は、「あの女性は所詮、高嶺の花だよ」と人に言ったことはないが、思ったりしたことはあったかもしれないが、最近はそういう見方が好きでなくなっている。

まず、自分を、その女性の下にランクに置くということが気に入らない。私は、男性にも、女性にも、尊敬～リスペクト～の気持ちはある可能性はあるが、だからって、自分は下だという気持ちは持ちたくない。だからって、私はプライドが高い人間ではない。短大は出ているが、その程度で、頭が優秀な人のようなプライドが高いという意味でもない。

「高嶺の花の女性」と言っている時点で、諦めが入っていると思う。だが、諦めることは悪いことではないが、私だって、女優の井川遥さんや、長谷川京子さんと、結婚することはできないと諦めているし、よく知らないが2人共すでに結婚しているかもしれないし。

なぜ、「高嶺の花」という表現が嫌いかと言えば、あくまで私の話になるが、ある集団に所属すると、決まって綺麗な女性というのはいるものだ。私は、綺麗な女性の場合によっては、挨拶してもスカしたり、無視したり、相手にしない、傾向がある場合があるので、それをしてくる美人は多いから、私はあえて親しみを込めて話をすることはない。距離を置く。確かに親しく優しく話をしてくれる女性もいるから、そういう女性とは話す。

ちょっと話は逸れるが、私は小学生時代とか、親戚の集まりでも、仕事場でも、これは男性の話だが、「この人は話しにくいな」、「なんか壁があるな」と思うと、あまり話さないようにしたりするのだが、私はバレないようにそうしていると、ある時「なんで俺を避けようとするんだ！」という感じで、キレ気味にされるとか、不信な目で見られることがあった。仕事場でも、私が「なんとなく私は、この人は付き合いが深くなると私とトラブルを起こすな」と思い、こちらから挨拶をしないと、向こうもしない。これではマズいと「サヨナラ」と声をかけると「サヨナラ」と返してくれる。だから、無意識に壁を作るとバレるのだ。

ここからまた女性で、親戚や、スポーツジム……など、挨拶をしたと思ったら、スカされるケースを経験してきたので、私は美人が好きだが、女性の、人によってはそんなに関わろうとか、近づいて話したいと思わない。美人でプライドが高く、でも、「お前程度のような奴とは話さないで、距離を保つ」というタイプの女性とは何度も会ってきた。だから、そういう意味では、私は、美人は好きだけど、美人には縁がないのかもしれない。もちろん、美人が「そういう距離感」を見せてきたら、私は近づこうとしない。

だから、話は戻るが、女性に対して「高嶺の花」なんてものは持たない。もちろん、井川遥さんや、長谷川京子さんなどは、「高嶺の花」に近いが、それはCMでも見て見惚れていればいいだけだ。

男性は美人が好きで、女性も（イケメンが好きだろうが）じっくり観察しながら、性格を含め惚れていくと聞いたことがある。私は確かに美人が好きだが、女性の性格が大切だ。

18、サッカー、遠藤保仁選手について。

私は、自分のプロフィールでも、当時から好きなスポーツ選手（人物）として変えていないのが、松井秀喜さん、遠藤保仁選手、宮里藍さん、の3人だ。

今、遠藤保仁選手（以下、ヤットさん）は、長く所属していた、J1のガンバ大阪から、J2のジュビロ磐田に移籍してプレーしている。最近では、磐田でゴールを挙げ、新記録かはわからないが、Jリーグでの何年か連続ゴール記録を果たした。

他にも、日本代表の最多出場記録や、Jリーグの最多出場記録などを持っている。

なぜ、私は、ヤットさんを好きになったのかは理由がわからない。気づいたらファンになっていたという感じだ。

昔、実家で日本代表の試合を見ていたら、実況がおそらく「遠藤！ 遠藤！」というので、若かった私は「遠藤は凄いよ！」とか、ヤットさんがシュートを外すと「遠藤決めろ！」と言っていたのは、憶えている。

そのうち、私は今39歳だが、28歳～33歳くらいの間の仕事場で、サッカーに詳しい仕事仲間の方がいてよく話した。当時、バルセロナFCに、シャビ、イニエスタ、メッシ……などのポジションサッカー（パスサッカーとも言ったかな）が流行った。その中で日本でも、ヤットさんなどがボランチでパスが巧いとか、簡単に言うとサッカーが巧いということで、ヤットさんにのめり込んでいったと思う。

ヤットさんの本が売っていたから、そして、どんどん発売されていたから、ほとんど買って読んでいた。最近では5～6冊くらいは箆笥に締まってあるという感じだ。

あと、これはダイジェストで見た物だが、クラブワールドカップで、マンチェスター・ユナイテッドと、ガンバ大阪が戦った時に、ヤットさんが物凄い活躍をして、マンUを脅かしたので、マンUのアレックス・ファーガソン監督が、「遠藤という選手を、うちのクラブに持って帰りたいくらいだ」という発言をしたという。それは、私がヤットさんのファンになったあとから聞いた話なので、嬉しかったし、「昔から、ヤットさんはそんなに凄かったのか！」と思った。

アジア地区最終予選では、多分、内田篤人選手がファールを受けて、コロコロPKでも有名だったヤットさんが蹴ることになったけど、開催がアウェイだったので、客席からレーザー光線とかを目に当てられる状況で蹴って、止められてしまったことがある。あれを決めていけば、ヤットさんが主役だったが、次戦で本田圭佑選手がゴールしてW杯進出を決めた。

いつかのブラジルW杯では、後半にヤットさんが投入されるが、コートジボワールもディエ・ドログバを投入して逆転されたが、ヤットさんは本では「交代したあと、流れを持っていかれたのは申し訳ない」というようなことを書いていたが、ヤットさんは「あの時点で日本の選手の足が止まっていた」と分析していた。もちろんヤットさんのせいではない。

ヤットさんは磐田でプレーして、今後どんな道を歩くのだろう。本では「監督もやりたくなってきた」と話していた。そうすればヤットさんをずっと応援できる。楽しみである。

19、イケメンについて。デビッド・ベッカムや、内田篤人選手など。もちろん KAZU さんも！

私は、昔から自分の顔を鏡などで見るのが少ない。今でもほとんど見ない。さすがに、髭を剃る時や、歯を磨く時、ジェルなどを頭につけて顔とのバランスを見る時、洋服の上下のバランスや色が合っているかを見る時、あとは、顔ではないが、自分の体つきを見る為に鏡で腹が出ていないか見るくらいだ。

自分の顔を見て、見惚れるというナルシストタイプでもないし、昔から鏡で自分の顔を見るということに興味がない。別にそんなにかっこいいわけではない、とは言いたくないが、メガネもかけているし、せめて普通か？ 退屈な顔？ かもしれない。

それでも、小学生の時は、小6の時に、小5の女子生徒2人が追いかけてくれたことはあったけど、モテるという経験はないと言っていいだろう。

私が今までで一番かっこいいと思ったのは、単純かもしれないが、サッカーのイングランド代表のデビッド・ベッカムが、あのムーブ（現象）も含めて一番かっこいい、いわゆるイケメンに感じる。

他には、イタリア人の、フランチェスコ・トッティもかっこいい。私は、トッティの自伝も買って読んだ。というか、トッティは確か、AS ローマというチームにずっと所属し続けた。中田英寿さんなどとも一緒にプレーしたはずだ。

それから、やはり三浦知良選手（カズさん）はかっこいい。私は、「やめないよ」、「とまらない」、「カズのまま死にたい」のコラム集3冊を持っている。他にも「おはぎ」……など、昔、図書館で借りて読んだと思う。カズさんみたいなサッカー選手は、ちょっともう出てこないかもしれない。それだけ私には影響力がある。ずっと現役でやって欲しい。

ハンサムという意味では、日本では、内田篤人選手はそうだろう。最近、内田選手のことを書いた本をkindle（電子書籍）で買ったので、読んでいる。最近、確か日本代表のロールモデルとか、若い日本代表か鹿島アントラーズの何かを引き受けるとか、報道ステーションのスポーツコーナーに登場して、違うスポーツの取材をしに来るなど幅広く活躍しているみたいだ。日本では「ウッチー」なのか？ 外国では「ウッシー」と呼ばれているようだ。

私は男だから、男から見た男のハンサムの視点が、例えば、女性から男性の「この人はかっこいい」という感覚があまりわからない。それは、ある種当然かもしれない。特に、私は、スポーツが好きだから、スポーツ選手ではハンサムと思っても、俳優やタレント、歌手では、誰がかっこいいか？ よくわからない。スポーツ選手以外は興味がない部分もある。

あとは、巨人の坂本勇人選手は、かわいいし、かっこいい。笑顔の時なんかは本当にかわいい。性格は昔から負けず嫌いだったと聞く。今は巨人のキャプテンをずっと務めているけれど、将来もし巨人の監督をやったら面白そうだ。だけど、坂本選手本人はやりたいのかな？ でも、多分周りや、ファンから、推薦されるだろう。

サッカーは、女性は多分、南野拓実選手はハンサムだから人気はあると思うし、私は個人的には日本代表では、伊東純也選手なんかはハンサムで、韋駄天（いだてん）で、好きかな。

20、新しい仕事場・作業所を続けられるかのネックは、一番は人間関係を気にしないこと。

20章の、最後の章になったので、最後は、私がこれから6月19日（土）で39歳の誕生日を迎えて、順調に行けば、7月2日（金）から新しい仕事場・作業所をいかに続けられるかについて書いていきたい。

私は、28歳～33歳の5年半は、ある仕事場で働いていたのだが、一番の辞めるネックとなったのが人間関係だったと思う。上司にも言われたが、「眉間にシワが寄って（これは言われていないがそうだったと思う）ピリピリして、ストレスを溜めていた」、「辞めてからは、顔つきがすっきりして明るくなった」というようなことを言っていた。

私は、33歳～38歳の5年間は、自分でやりたいことをやって過ごした。でも、本文でも書いて触れたが、プロレスラーになれるわけではないし、音楽のミュージシャンになれるわけでもないし、好きなことを活かした上での経営をできるわけでもない、という中で、自然と働き出して社会性をつけたいと思った。例えば、プロレスでも、プロレスコラムを書くでも、音楽の作業をやるでも、やりたいことがあったら、作業所で働きながら、社会性と少しの小遣い程度のお金を稼いで、一緒にやれば良いという結論に至った。

問題は、新しい作業所で、昔の学生時代のように、「集団の中の孤独」のように孤立することがあるかもしれない。それから、挨拶を無視されるとか、まだ、体験を4回して、今度から実践に入るのだからわからないが、上司も始める前におっしゃっていたが、「あまり、ここで仲良く話す人を作ろうとか、そういうことは考えなくていいんじゃない」と言っていた。だから、私は、その言葉の通り、今回の新しい作業所では、会話をされたら、ちゃんと会話を返すみたいなことはしたいと思っているが、特に最初のうちは自分から積極的に話しかけるとか、そういうことはしなくていいと思っている。この新しい作業所にどれだけ通えるかも全く決めていないが、私は前回つい、「前回の仕事を辞めて、自由を掴んで、そして選んだ道だから、多分辞めないと思います」と言い過ぎてしまった。正直、少し後悔しているが、また言い直せばいいことだから、少し改めて気楽に通えばいいと思う。

メンバーさんが、スタッフさんが、どういう態度を取ろうとあまり気にしなくてもいいが、逆に、気にしてもいいのかもしれない。一番は季節を含め難しいのだが、朝決まった時間に起きられてコンディションが良いのであれば、ちょっとしたことでは傷ついたり、イラついたりしないと思う。先程の「集団の中の孤独」も、スタッフさんは声をかけてくれる可能性はあるし、声をかけてくれなくても、仕事をやる段階になれば声をかけてくれるわけだから、今度の新しい作業所は、極端に言えば「仲間を作りに行くのではなくて、仕事をやりに行くことに集中すればいい」と思うことが大切だと思う。通っていれば嫌なことはどうしてもあると思う。男性・女性に限らず、スカされることもあるだろう。きつく言われることもあるかもしれない。ミーティングでは自己紹介で緊張するかもしれない。コンディションが悪く眠くてダルイ日がまたあるかもしれない。でも、いざとなったら、ちゃんとスタッフさんに電話でもなんでも連絡すればいい。休んでも構わない。気楽に挑戦すれば、大丈夫だよ！

おわりに

2012年6月12日(土)から書き始めて、20章を書き終えるまで1年くらいかかるのかな?と思ったら、2012年6月14日(月)完成。つまり、3日間で書き終えることができた。私の誕生日が2012年6月19日(土)だから、文中では39歳と記しているが、実際は38歳で書き上げてしまった。しかし、副題は「岡本悠 39歳のエッセイ集」にするつもりである。

とにかく、新しい作業所の仕事が始まる前に、現状の意気込みや豊富を書いておきたかったのだが、私は、プロレスコラムとかは多少書く才能はあるかもしれないが、こういうエッセイ集はどんなもんだらうと思った。だけど、昔からそうだが、そしてまだ具体的に仕事に通い始めていないのもあるから(体験を4回終えたので始まると思うが)、自分の書く幅というのが趣味などあまり広くないかもしれない、と感じた。別に自由に書いたからいいのだが、野球やサッカー、プロレスのことなどが、重複して書いてあるのもネタがよっぽどないのだなと思った。

そもそも、良く思えば、誕生日が近くて焦ったわけではないが、1年くらいかかり、40歳くらいに完成する可能性があると思っていたくらいだから、3日で20章と、はじめに、おわりに、を書けたのは恐るべきスピードだと思った。内容は雑かもしれないけど。

プロレスに限らず、こういうエッセイ的な本や、もっと題に合った揃えた内容の本を書いていくというのも、もしかしたら、また新たな道かもしれない。だが、この段階では別にお金を払っていただいて読んでもらうわけではないので無料です、0円です。自分で読む為に100円くらいでkindle本にする可能性はあるかもしれないけど、それも少し面倒かな。

とにかく3日間、こん詰めて書いたので、まずはゆっくり休んで、違う人の本でも湯船に浸かりながら読みたい気分だ。

以前も「32、34、35歳のエッセイ集」などを、HP(ホームページ)のBOOKSコーナーで出しているが、そこでも、「書き始めたら一気に書き上げてしまった」と書いてあった。今回も結局、「アツという間」に書きあげてしまった。

私の30代もあと1年ちょっと。つまり、1年後は40歳になる。

東京オリンピック・パラリンピックも、開催されれば、無事に終わって欲しい。

そして、このコロナ禍が早く終息して欲しい。

で、私はといえば、何度も書いている通り、新しい作業所で働き出して、できれば少しでも長く続けられる、根性というか、強さというか、粘りのようなものが欲しい。

その作業所はして何の為?と自問してしまうかもしれないが、やはり、大きいのは社会との繋がりだろう。孤立しない為の社会性。そういうのが長く出来て身に着けば、プロレスでも、プロレスコラムでも、音楽でも……新しいことに挑戦できるかもしれない。やりたいことができてしまったら作業所はやめずに、並行してやるように考えたいと思う。

最後に、この本や、私に関わってくくださる人、読者の皆さんに心から感謝します。(終)